

日程第1. 市政一般質問

○議長（作元 義文君） 日程第1、市政一般質問を行います。

それでは届け出順に発言を許します。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） おはようございます。先日からの一般質問は質問者の時間が結構長い時間をとっておりました。私はその逆をやりまして、明瞭簡単に質問時間を述べたいと思います。そのかわり市長の答弁が、恐らくきのうの3倍ぐらいになると思います、時間的に。その点ひとつ、今回は市長の考え方を中心に私は勉強しようという思いでございますので、ひとつそういう覚悟で一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは通告に従いまして、市政一般について質問をいたします。

今回は、私は対馬の観光産業と将来のこの方向づけについての的を絞り、財部市長への率直な考え方について伺いたいと存じます。

まず、国内からの観光客が流入している中で、このような国内の観光の現状と、そして将来の誘致の戦略について、どのような具体策を持ってこれから、あるいは今までの取り組みをなされてきたのか、このことについて、具体的な市長の答弁を望むものでございます。

次に、何といたっても韓国の観光客、これは最近におきましては6万を超える数字が具体的に現れております。この韓国の観光客の現状の分析と、それと今後将来の誘致の戦略をどのように考えておられるのかお伺いしたいと存じます。

最後であります、私は今年10月のうちに上対馬町海栗島において、航空自衛隊第19警戒隊の記念式典の出席をした折に、そのときに上対馬の対馬観光物産協会の上対馬支部長様とお会いする機会がございまして、たまたまそのお話が上のこの経済の低迷、この中でいろいろな角度でことはしてまいりましたが、本人から言わせれば不満であると。もう少し抜本的な対策、そういうふうな市政の中で皆様が納得するようなことが、もっと大きく打ち出してほしいというようにお言葉がございまして、私はそのときに、12月の定例会の折に、財部市政の中でこのことについて、今までのこと、今後のことを含めて問いただして、共にどうしたら上の経済が浮揚するのか、このことを勉強して力になりたいという思いで今回そのことをテーマにいたしました。

で、この3点について、簡単ではございますが、私、財部市長の今までなされたことと今後望むこと、その挑戦することにつきまして、真剣に本日来まして、あなたのお話を中心に聞きまして、私なりにわずかでございますが対馬をどうするか、あるいは観光をどうするか、北の経済をどうするか、このことについてわずかな時間でございますが、この機会をひとつお借りしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） おはようございます。大浦議員の御質問に答えたいと思います。

3点ありました。基本的に観光の誘客戦略をどうするのかということ、それから今訪れていた
だいております韓国観光客の将来の方向性といえますか、位置づけ、対馬の観光の中における位
置づけをどうしていくのかということ。それから、最後に、この北部地域における振興策につい
て私の基本的な考えをとということでございます。

私、この場でも何度か申し上げたことがございます。観光というものが、ただ単に人を呼び込
むだけでは、やはりそれはどこかが欠落した観光ではないかと。で、こちらの受け入れる側の問
題ということが大きな部分があるのではないかと。そういう中において、私は福岡事務所の位置
づけのときに、消費者である、もしくは観光客もある意味消費者と位置づけた場合、その消費者
が何を求めているのかということに対して、こちらがきちんと対応していくことをしないと、観
光というのは成り立たないということを、そういう意味において、福岡事務所の役割というのは、
向こうのほうの動向とか、率直な消費者の考え方というのを、市民の中に、もしくは観光業者の
関連する方々にフィードバックすることが大きな役割の一つだというふうなことはたびたびここ
で申し上げてきた次第です。で、そういう意味で、観光そのものをそのように私は考えておりま
す。それをきちんとしたベースができてつくり上げていくことが大事だと。そうすれば、おのず
とリピーターも増えていき、観光産業というのも生き延びていけるんだというふうに思っていま
す。で、国内のお客様、国外からのお客様、限らずに、これはその受け入れるベースをつくって
いかないといけないというふうな思いがあります。

そういう中で、実は観光物産推進本部のほうも、いろんなことを観光に関わる方々に相談をし
てる部分があるんですが、なかなか今までの考え方が変わらないことで大変事務方のほうも口惜
しい思いをしている部分があります。で、行政のほうからこういうふうな方向性でいきたいとい
うふうなことを投げかけても、動かない部分がまだまだあります。そのあたりを私どもは変えて
いってもらえる努力をこちらもしていけないといけない。で、観光に関わる方々もそういう意識
を持って変わっていただかないといけないというふうに思っています。そういう中で観光とい
うのは成り立つという思いがあります。

で、きのうもきょうもそうですが、観光案内人の方がずっとバスに乗って案内をされておりま
す。「やんこも」というグループですかね。で、きのうもお見かけしました。バスの中でずっと
案内されていました。きょうもお客さんを朝誘導をされておられましたけれども、そのようなソ
フトというのを外部といえますか、直接観光には関係のないボランティアの方々が頑張っていた
だきよる中で、直接的な観光に関わる方々も今までの考え方を変えた受け入れのあり方というも
のを真剣に考える時期が来たんじゃないかというふうに私は思います。しっかりとそのあたり、
私ども行政としての誘導もしていきたいというふうに思います。

いろんな取り組みを今現在まで市としては観光に関してはしてきております。ところが、それ

が費用対効果ということで仮に言われた場合、投資した分に対して、じゃあ何人それで直接増えたかというのの関連性を見出すことは大変難しい部分があります。しかし、投資をしないと人は来ないだろうということで、韓国の方においても、そして国内においても、しっかりと施策を打ってきている次第です。特に市としましては、観光物産協会と一体となって、都市圏のエージェント訪問もやっております。モニターツアーも取り組んでおります。そしてエージェントに対して観光商品をつくっていただくための現地研修等も行っておるところです。そして福岡事務所を核として、北部九州においては、さまざまなアウトドアショップ、レジャーショップとか、そういうところにもずっと出向いて、対馬の体験ツアー等の商品造成に向かって動いているところ

です。
また、この福岡事務所においては、新聞・ラジオ等のマスコミ、この媒体をフルに活用して対馬の認知度を向上させよう、さらにそのことによって誘客を促進していこうということで、日夜彼らは頑張ってくれているところ

です。
また、最近よく話を聞きます大型クルーズですね、このあたりのことについても一生懸命取り組みをしております。で、このクルーズ船については、ナナハン岸壁がどうしても必要ということで、国土交通省の方にもクルーズ船を引っ張り込みたいということも含めて港湾の、昨日も話しが出ましたけども、重点港湾の選定の問題については、そこも色濃く出しながらお願いをしてくれているところ

です。ところが重点港湾の分については、新たな新規の分は認められないというふうな国の大変冷たい決定でありました。私ども対馬は、この大型クルーズに関しましては、外国船員をほとんど雇って運航をされておられます。で、外国の船員さんの場合、1カ月に1回は国外に出なければいけない決まりがあるそうです。で、できれば一番近い韓国の方に1回出ることによって、それはこなせると、クリアできると。ならば、同じ船を動かすならば、この対馬の観光をそこに入れ込むことによって、ただ単に船員を1カ月間、法律の決まりのために運航するのではなくて、商品として1回外に出る、そのようなこともお願いをしていこうということで、ずっと協議を相手方としている状況

です。
そういう中で、新年度は3隻の入港が一応決まっている部分があります。当然、今の世の中ですから、そしてインターネットの活用ということで、うちのホームページもしかりですが、福岡事務所のホームページ、対馬観光物産協会のホームページ、これらも頻繁に更新をかけながら情報提供に努めているところ

です。
私は先日、大手の旅行会社の役員さんがお見えになった際、ずっと新しい商品の造成について話をしたんですけども、これから先、国境観光という商品があるんじゃないかという提案もさせていただいたところ

光というものを取り入れてほしいというふうなお話もさせていただいたところです。

役員さんについても、今の社会情勢等を考えたときに、そのようなものも商品としてできるだろうというふうなこともあります。また、司馬遼太郎の本にもありますように、対馬がまさしく神々の島というふうな表現がされておりますけども、この神々の島というものを日本人として体感する最もいいフィールドは、私はこの北部九州の中では対馬だと思います。そういう意味において、きょうもそうでした。全国の神道連盟の青年部の方が観光といいますか、視察にお見えのようにありますけども、この神々の島という日本人のアイデンティティというものをきちんと表に出していけるものを商品として全面に押し出していきたいなというふうな思いがあります。

そういう意味において、しっかりと観光というものを位置づけながら取り組んでいきたいと思っておりますし、冒頭言いましたように、この観光の基本的な部分というのを私ども市民、そして関連する皆さんが、考え方をこの機会に変えていく努力をお互いしていかなくていけないというふうに思っております。

また、韓国観光客の将来というものでございますが、これについては、国内国外全く変わらず物事はやっていかないといけないというふうに思っています。明らかに近い、そして数の多い、そこにお客さんがいらっしゃるわけですから、その方たちが、ある意味満足していただけるようなものを提供していく必要があろうかと思えます。それが対馬の生き延びていく大きな要素だというふうにも思っていますし、歴史を振り返れば、そのようにして生きてきたというふうなことであります。

これは余談ですが、たまたま今読んでいる本が1500年代を舞台にした「対馬往還記」という本を読んでおりますが、そのときも宗家がにせの国書で人を玄蘇、外交僧であります玄蘇を送り込むというふうなことで貿易をしているというふうな場面があります。それは、にせの国使を使ってでも貿易をしていかないと生き延びていけない対馬の姿だと思いますし、決してうそをするつもりはありません、現代ですから。しかし、私どもは韓半島も九州北部もにらみながら生き延びていくことは、未来永劫変わらないんじゃないかというふうに思っております。

次に、北部の振興策についてお話がございました。確かに近年といいますか、この10年ぐらいの間に上県、そして上対馬地域においては、それぞれ1,000名近くの方が減少していると。北部2地域で2,000名近くの方ですね。しかし、これを今すぐに止める方策というのはあるのかといたら、日本の人口減少が始まってから日本全体のなかなか難しい問題だというふうに思っています。しかし、先ほど言いますような、私どものこの対馬の地勢的な条件を前面に押し出していけば十分にやれるというふうな思いがありますし、今進めております、この環境を前面に出しながらやっていく施策というのでも十分に人は入ってくるであろうし、そしてこの北部地域においては木材という大きな財産も抱えてあります。そして舟志は木材の積み出し港というふ

うなことで、たしか平成10年ぐらいに整備を完了していると思いますけれども、そのような舟志港、比田勝港の中の舟志港も十分に活用しないといけない。舟志という場所は、すごく上県からも抜けて利便性の高い港だと思いますし、このあたりも十分に積み出し港として私は使っていけるというふうに思っております。

で、今までの公共事業というものは、もう皆様御存じのように、以前のような形で復活するということは、もうあり得ない時代になっているわけで、じゃあどうするかということ私どもはみんなで考えなければいけないと。で、この2つの活性化センターは、今までいろんな経済対策を国が打ってきた際に、センターの職員も一生懸命に考えをまとめて出してくれています。最もセンターの中で予算が多いのは、この2地区です。この2つの地区が、自分らの地域のやはり危機感というものをしっかりと予算に反映させながら次なる展開というものを模索している姿、もがき苦しんでいる姿も十分に感じているところです。私どもはそこについては十分に把握もさせていただいております。私自身もどこかで妙案はないかともがき苦しむ部分もあります。で、市民の方々も一緒になって物事を組み立てていかないと、行政だけでは到底私は不可能だと思っておりますので、そういう意味において、今職員と一緒に市民の方も方向性というのを見出すために頑張ってくださいたいと思いますし、その方向性が定まったときに私ども行政が次なる支援を打っていくというふうな考え方を持っているところであります。

その他につきましては自席でさせていただきます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 非常に具体的な戦略という前に受けるものと呼ぶものの、いわゆる心意気が整った中で事を進めない限り、この産業は伸びないという、非常にまとは得ていると思います。それで私は、まずそのことの中で尊重はいたしますが、現状と将来のあり方がどう移るか、この辺について若干お話を聞きたいんですが、韓国のことも並行して、国内の観光と両方申し上げますが、平成19年度の数字の中で、来島された韓国の入国実数は6万5,470人というふうな数字が出ております。非常にわかりやすいです。100%に近い状態の観光客と見なすんですが、片や国内の観光客の実数は、統計資料に基づいた中で非常に確認ができにくい状況ではありますが、基礎数字となるおおむねの日本国内から対馬に来た1年間の実数をどのくらいに市長は見ておられますか。まずその点を認識の中で、私はこの部分はある程度詰めんといかんと思うんです。ひとつお尋ねいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 国内からのまず入り込みの数字については、今観光統計が算定方法を変えているということで、まだ正確な数字はつかんでいないのが実態です。で、今までの観光統計というのがあまりにもアバウトな数字でありました。で、そのあたりでは、次の方向性が見定め

られないということで統計のやり方を観光統計については変えるということになって、今その作業をしている段階です。

ちなみに、昨年までのその観光統計の数字でいきますと、六十数万人というふうな数字が出ていますが、これについてはもう首をかしげるしかない数字だと思っております。実態とあまりにもかけ離れているというふうに思いますので、そのあたりのきちんとした数字が出た後に、今の入り込み客数というのは発表ができるのではないかなと思います。昨年までの観光統計が正とすれば六十何万人というふうな数字であります。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私は、担当部署を含めて市長にもお願いしたいんですが、日本国内からどのくらいの数字が、本当に、半分以上は観光、半分以上はビジネス、いろいろありましようが、ここの数字は抑えておかないと物事が語れないと思うんですよ。例えば永尾部長の説明されましたね、これ資料。第1次対馬市総合計画の基本計画の見直し案の1ページ目、この一番下の経済の中に観光客の数字が入っております。ね、これを書いていますね、唯一観光客が15%程度増加し、拡大が期待できると。その数字を見ますと76万8,522名という数字が出ておりますが、これはあくまでも今市長が申し上げますように、とらえ方の数字が、根拠が違うものですから、これをうのみにすれば大きなことになりまして、とんでもない数字でございます。

しかし、このことが韓国では6万数千というふうなことが確定しまして、日本から何人来ているかというのがわからんということは、私は観光行政をする中で、今からひとつおおむねその数字は抑えていくようなことにならないと本物ではないというふうに思いますので、ひとつそれは担当部署含めてその努力をしてほしいんですが、私は本部長の本石さんからお聞きした数字は、実質がどのくらいだろうかと。で、問題がありましようが、本石部長の見解では実数としては5万あるだろうかという話がありました。しかし、これは観光プラスビジネスを含めた数字であるという言い方をされまして正解だと思います。そうなれば、本当に来ている実数はそれ以下だというふうに認識するべきでしょう。そうすればこの現実、非常にスモールであるというふうに私は思っております。その辺、私はそういうとらえ方を厳しくしているんですが、認識はどのように思っておられますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私今大浦議員がおっしゃられるように、その数字、もらった数字もそれ以下で恐らくという、懐疑的に思っておりますが、私もこの観光統計そのものもすごくアバウトな統計をずっとやってきて、日本中がやってきているわけですけども、いつか新しいのが欲しいなというふうな、やり方が欲しいなというふうに思っておりましたけども、今回からそういうふ

うなことで、新たな手法でやるということで、本当の実数というものが、実数に限りなく近い数字が出るんだらうなということで逆に不安半分、期待半分といいますか、そういう感じでその数値を待っているところです。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） それで、私もくどいようですが、そのことが今問題であるというふうに提言してもよろしいかと思えます。

それと、島にどれだけの経済効果をもたらすか、この件につきまして、私は島民の皆様を含めて、このことが十分理解をするべきであろうと思うんですが、資料によりますと、平成19年の6万5,000の韓国よりの来島された経済効果は21億円というふうな数字を長崎県の統計関係の専門の方からはじき出したというふうなことを聞いております。

それと、その旅行会社が募集した旅費、これがおおむね30万ウォンであろうと。ですから3万円の日本円にしまして、その前後が旅費の1泊2日の金額であると。そうしますと船賃が7,500ウォンの往復ですから1万4,000円前後の、5,000円前後のお金がかかるわけですが、私はそういうふうな積算の中で、じゃあこの宿泊とバス、あるいはガイドさんの手数料、あるいはその残った土産とか、そういうふうなことを含めた積算を非常に分析として私は把握しておりませんが、できれば本石本部長、あるいは市長で結構ですが、これらの分析をどのぐらいのお客さんが島にお金を落としているかというふうな積算という見方、これをできれば分析されておるならば教えてほしいと思うんですがいかがでしょうか。どっちでも結構ですが。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 確か21億6,000万円だったと記憶しておりますが、で、単純にそれを6万5,000人で割ったときに1人3,000円の消費額といいますか、島内消費額ということになるのかなというふうには、そのとき21億6,000万円を見たときには思いました。全てを含んでですね。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私は、今韓国の観光のことを申し上げたんですが、国内の観光についての戦略が、具体的に対馬を売り込む中で、先ほどいろいろ申されました。その中で、もう少し基本的な戦略が私があってもいいんじゃないかということがあったんですが、これは今から4年ぐらい前になりますが、全日空の職員を対馬市が一時的に採用いたしまして、地域マネージャーという言葉でございます。この方は年の報酬を1,000万円、1人の職員に1,000万円、これを給付しまして、2年から2年半、たしか対馬市でその業務に携わって、対馬をどう本土の観光客にその引き込めるかという戦略をこの方は、いわゆるその積み上げたと思います。

このことの成果が私は非常に期待しておったんですが、財部市長になられてから、あるいは前

市長の間の踏襲でも結構ですが、このことが私は非常に対馬の観光を変えるものとして、ひとつの思いがしておったんですが、この続きについて、どうなっているか、これをお尋ねしたいんですが、部長でも結構です、市長でもいいですが、このことについて、ひとつ見解をただしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今の件につきまして、私と部長のほうで答えたいと思います。

確かに、ANA、全日空ですね、ANA総研と対馬市との間でアドバイザー契約といいますか、そういうふうな形をとって全日空の方からお一人お見えになりました。地域再生マネージャーという肩書きでお見えになりました。で、これについては、観光物産全般にわたってということの取り組みをしていただいたところであります。

で、特に観光と物産とどちらが主かといいますと、その方の感覚で、これだけの資源があるのに対馬の物産の売り方が下手だと、対馬が、ある意味ですね、そういう思いを強く持たれたみたいで。そういう中で、ANA関係の航空商事とか、いろんな取引先を紹介していただき、そしてその関係者をこちらに呼ばれ、商品をつくって、そして向こうに出すということに特に力を入れていただいていたような気がします。

しかし、ANAのほうは対馬との関連ということを十分認識されておられまして、ANAの商品開発のときも、当然対馬の商品を入れていただく、それは旅行商品ですね、ということもございましたし、今月号の「翼の王国」のたしか10ページだったと思いますけども、ここにも対馬の特集をしていただいているところでもあります。

今も実際、全日空の伊東社長は年1回対馬のほうにお見えです。で、私がお会いするときと会えないときもありますけども、お互いこちらに来られる時の情報も入ってきている次第です。で、この対馬の商品というものについても、全日空はしっかりと取り組みをその後していただいているところです。

というふうに、私はANAとの関係は今もずっと続いているというふうに認識をしております。そのほかのことにつきましては部長のほうから答弁させます。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 今市長がお答えしましたような部分でANA関係の分なんですけども、特別にまた現在、来年の2月号になろうかと思っておりますけども、「翼の王国」で対馬を掲載してあげると。さらには、ANA総研絡みで社内で歴史案内人という公募がございまして、対馬に関する案内人という部分でANAのほうから1名とANKのほうから1名、2名が歴史案内人というような社内システムで1月にはまた対馬に伺いたいというような報告も受けております。

私どもといたしましては、広告料として出すよりも、マスコミ媒体あたりには、何とか記事に
していただいて対馬を売っていただきたいと、売っていくというようなスタンスで考えておりま
す。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 担当部署からの資料をいただきまして、平成20年度の旅行会
社の対馬に送り込んだバスの利用状況からその割り出しているんですが、実は関東からのお客が
48%を占めているんですね。すごい数字なんですよ。これは私は間違いじゃないかな、九州じ
ゃない、いやこれ関東が48%、6,000人ほど。これは1万2,750人、団体のツアーのバ
スを利用した、韓国の旅行関係やバスは、もうほとんど分離されて、多分対馬交通が主体となる
と思いますが、この数字から見ますと、関東が半分取っとるんです。意外やったですね、その後、
中部、その他中国方面、九州はわずかなんですね。もちろんこれは旅行会社が企画したと。これ
を見たときに、全日空の地域マネージャーの構想は、九州の太宰府に旅を基本として、万葉の旅、
「まほろばの」という言葉を使ってましたが、私はその万葉集のそういう歴史の過去の中で太宰
府から壱岐対馬の旅を企画するというふうな、たしか提案を記憶の中にあるんですが、ひよっと
したら、このことが活きているのかなという気がするんですよ、その方の仕掛けたようなことが。
やはり一部活きているんじゃないかなと思いつつながら、このことをいい成功事例じゃないかなと思
うんですが、その辺は本石部長でも市長でも、つながっておれば非常にすばらしいことなんです
が、どういう見解をもっておられますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） このパックの数字につきましては、今言われる地域再生マネージャーと、
そのANAさんが観光商品としてきちんと組み込んでいただくことも当然影響というか、いい意
味で効果が出ていると思いますし、また九州郵船の九郵観光さんですね、この方たちも関東のほ
うで商品を強烈にセールスをされておられる、その部分もこの数字にも入っているのかなとい
うふうに思います。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） そういうふうなことで、非常にいい傾向でありますから、これ
はお客さんを逃がさぬよう大事にもてなして、また再び来るような話ができるようなことに私は
大切にせないかんと思う気がいたします。特に遠いところから来ていますから。

それと、次に進みたいんですが、韓国の観光の戦略、これで私はひとつ思いがございます。初
日に市長の行政報告の中で、5ページ目にあるんですが、10月14日、韓国ソウルで開催され
たそういうふうな旅行関係のいろいろな行事に参加されておりますが、ひとつこの中にソウル

とプサンの間の新幹線が開通されて、3時間かかるのが2時間18分に短縮されたというふうなことで、今までジェットフォイル等に乗ってきたお客さんが、朝鮮半島の南側釜山を中心としたエリアのお客さんが多かったであろうが、もうそろそろ底をつき、ソウル方面に集客を旅行会社とともに、地元とともに、対馬の、そういう戦略に打ち出すに非常に絶好の機会であるというふうには思っております。で、その中で、その戦略の一つとして、ソウル事務所、今釜山事務所ということでお聞きしますが、このことの対馬市のとらえ方、仕掛けというのは、どのような活動をやっておられるのでしょうか。そのそういうふうな事務所としての誘致に対するそこらあたりをちょっと聞かせていただけないでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 釜山事務所のその誘致の事業関連のことにつきましては、担当部長のほうから答えさせます。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） お答えいたします。

釜山事務所におきましては、平成15年に開設をしたわけですが、まず人間的な部分をどうするかということがあっておりますけども、まず一番妥当な人物がおったということでございます。かつて巖原町の国際交流員として3年間勤めました職員が副所長ということで、事務所開設当初から現在まで、流暢な日本語でもって対馬を熟知した状態で、もろもろの対応を行っております。

特に韓国におきましては、集合住宅が多い関係で、非常にIT関係が進んでおります。そういう部分でいけば、アクセス数も年間3万を越すようなアクセス数で、次が電話、それからエージェントの対馬紹介とか、あるいは対馬から行く各種の交流団体のお世話であるとか、常に忙しい状態であるようです。

特に今後は、今貿易関係が特に振興するよというふうな方向でございますので、そちらのほうも釜山の商工会議所あたりとも連携をとって、いろんな情報を集めております。主に、ですから対馬の紹介ということで行っておりますが、今後はまたそういう部分でいけば、非常に負荷がかかってくるんじゃないかということも私自身は心配をしております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 時間がどんどん過ぎましてあれなんですけど、私はソウルからの観光客の誘致に今後そこを拠点とした切り替えとございますか、それは富裕層のいわゆる流入、ここを狙う中で戦略としては絞っていくような方向で考えていただきたい。これが一つ。

それと、航空便の臨時便が現在2つの空港から対馬空港に飛んできております。このことにつ

いても、私は大きな着眼をせなならんという考えを持っております。この点は後で市長またソウル方面、金浦空港からこちらにやってくるお客さんのとらえ方、これ後で聞きますが、時間の都合、あと3分しかございません。北の浮揚のためにどうするか、この時間わずか3分です。私は申し上げることは十分ではございませんが、一つ考えてほしいことがございます。今年の見込みとして、現在4万7,980人が10月末、観光客が韓国から来ているそうです。それで年内見込みで6万人を割る。5万台の数字であるだろうと。南北のいろいろ緊迫した中で安定したこれだけの数字というのは今後も伸びるであろうと。ただ、現在、厳原港に週4回、上対馬港に週3回、この船、観光船は入港するわけですが、比田勝港のほうにおいての宿泊は、香海荘以外はほとんどない。あと厳原がすべて厳原、美津島に泊まっているというのが現実でございまして、そうなれば、お金というのは宿泊したその場所にほとんどの金が落ちると私は思っておりますが、この上の景気の浮揚を韓国の観光客と考えた場合には、この問題をどうするかが私は大きな課題であろうと思います。1分しかございません。市長そのことにつきまして私は特にどうしても香海荘以外の宿泊施設の誘致をやらない限りは、この問題は解決しないと思っておりますが、政策補佐官の今までの企業誘致の対応の中で上についてどういうふうにとらえてきたか。例えばホテルの誘致が具体的になれば、これをどうとらえてきたのか。このことを解決せん限り、私は上の浮揚がないような気がします。というのが、厳原中心にお客さんが泊まり、そこに金が落ちる。帰るだけの土産品を買うのが上のいわゆる立場、これでは私は抜本的な解決にならんと思います。そのところをひとつ最後ですが、今までとられてきた、今後どうしようと思うのか、そこらをひとつ最後に時間になりましたがよろしく願います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 上のほうの振興策でございまして、先ほど申しますように、職員と地域の方々が一緒になって、さまざまな今取り組みをソフトの部分で一生懸命やっていたと思っています。

で、最近、民間事業者のほうと行政のほうでタッグを組んでやりましたのが、グラスボートを導入すると。そして、あの北部鰯浦豊近辺のトレッキングのコースづくりをしていく。最近では、舟志の学校の周りの河川の改修方法を今観光客、そして子供たちが喜んでもらえるような川につくりかえてみようじゃないかという動き等も出てきております。そのような動きというのが私はすごく大切だと思っております。それが観光商品の一部にもなっていくというふうな思いを持っておりますので、その動きをどんどん進めていきたいというふうに思います。

もう一点の件につきましては、補佐官のほうからお答えさせます。

○議長（作元 義文君） 政策補佐官、松原敬行君。

○政策補佐官（松原 敬行君） 大浦議員のホテル等の宿泊施設の誘致の問題でございまして、これ

につきましては、過去にもあそこの渚の湯のホテルあたりの土地にそういった話が過去にもありました。現在もその土地がそのまま現存しているわけでございます。

私ども、企業誘致の担当としましては、当然厳原、あるいは上も一緒ですけども、同じ立場でそういった希望する企業を物色しているのが事実でございます。ただ、現状といたしましては、今ある旅館を旅館業等なさってある方々のやっぱり御意見も十分に把握しないと、どうかなという部分もあります。既存の旅館業を営んである方々につきましても、年中的に決して宿泊客が詰まっている状況ではございません。ほとんど空いているというお話も聞いております。だからその辺のやっぱり調整をしながら企業誘致は進めていくべきだというふうに考えております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 以上で、大浦君の質問は終わります。

.....

○議長（作元 義文君） しばらく休憩します。開会を11時10分から行います。

午前10時53分休憩

.....

午前11時10分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 質問の機会をいただきましたので、ただいまより一般質問をさせていただきます。

さて、ことしも終わろうとしておりますが、報道によりますと、日本の景気はややよくなってきているということでもありますけれども、我が対馬においては、そんなことは感じられません。むしろまだ下降気味ではないかと心配しております。市長、対馬の今日の経済状況をどのようにお考えでありましょうか。

さて、通告に従いまして質問をさせていただきます。

1番目の経済対策についてであります。国の政策で始まりました緊急雇用創出事業臨時特例事業、またふるさと雇用再生特別基金事業が平成21年度から3年間、この基金事業が創設されてきて、いろいろな分野におきまして雇用対策が実施され、延べ279人の雇用があり、金額にいたしまして3億4,194万8,000円の事業費が投入されております。そのことによりまして、かなりの効果があったと思われま。

しかしながら、聞くところによりますと、雇用されておられる方もこの12月末で打ち切られるという人もおられます。このようなときにおきまして、23年度においてどのような基金事業があるのかお尋ねをいたしたいと思っております。